

POTEKA研究成果発表

VOL.6[2023.12]

季節の良い10～11月は秋の学会シーズンでもあり、多くの発表会や研究会などが行われます。当社も様々な学会に参加し、POTEKAの観測や予測技術に関する研究成果の報告などを行って参りました。今回は、いつもの気象事例の紹介ではなく、その学会での報告の様子などをご紹介します。

(1)日本気象学会2023年度秋季大会（10月23～26日：仙台国際センター）

本学会では、当社は2件の研究成果報告を行いました。

①「GPM/DPRがPOTEKA観測網上空を通過した際にダウンバースト発生有無を分けた局地的大雨2事例の解析」

こちらの研究では、POTEKAを衛星観測とうまく融合できれば、降水量100mm/h級の似たような局地的大雨でも、更にそれがダウンバーストの発生にまで至るか？至らないか？、といったことを事前に識別できる可能性を示しました。

②「GSMapが過大評価を示し易い長野県山間部におけるPOTEKA地上降水量観測との比較検証」

こちらの研究では、山間部でのPOTEKAと衛星の日降水量等の比較結果を報告。地上観測の詳細理解が衛星観測精度の向上に繋がる可能性を示しました。

この①②の研究においては、長野県池田町・筑北村・箕輪町、および埼玉県全般のPOTEKAデータを活用させて頂きました。



【写真1】当社が進行役（右下）を務めた報告会の様子

(2)The Joint PI Meeting of JAXA Earth Observation Missions FY2023

(11月6～10日：新橋TKPカンファレンスセンター)

本会は、JAXAに任命されたPI(主任研究員)がそれぞれの1年間の研究成果を報告する場で、海外研究機関（NASAやESA）を含め様々な研究者の方々が参加されました。当社も、(1)の気象学会でも報告した2件の研究成果報告を行ったほか、局地的大雨や層状性降水などの特殊な降水現象発生時における空の構造(雲の高さや広がり)などについても議論を深めました。



【写真2】報告を行う当社従業員

(3)つくば市竜巻災害から11年 シンポジウム（11月26日：ホテル日航つくば等）

日本風工学会主催の本シンポジウムでは、「竜巻等の突風を観測・予測するための民間企業の取組み -POTEKA地上稠密気象観測網-」といった標題で講演を行い、民間企業が行う最新の竜巻観測・予測技術として、POTEKAを紹介しました。本発表には、茨城県全般に設置されているPOTEKAデータを活用させて頂きました。

会場からは、気象学や風工学のほか、POTEKAや当社についての質問も飛び交い、大きな反響を得ることができました。

今後も様々な研究を通じて、学術分野においても民間企業が活躍する姿をアピールしていきたいと思っております！



【図1】シンポジウムパンフレット